

三重県立上野高等学校
同窓会報

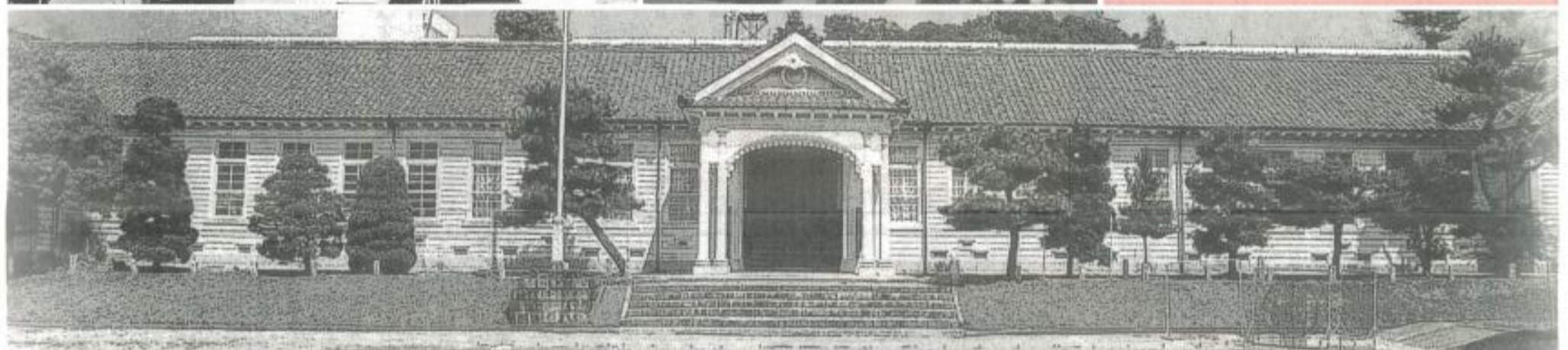
VOL.6

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
<http://www.ict.ne.jp/~hakua/>
E-mail：hakua@ict.ne.jp



フォトメモリー
あの日、あの時
Part 1



同窓会長 左橋佳三

上野高等学校同窓会の皆様におかれましては、益々ご社健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また平素より同窓会の事業運営に對しまして、物心両面に亘りご理解ご協力を賜り、誠に有難く存じております。

さて、会員の皆様には、今年で創立一〇八年目を迎えた母校の伝統と、校訓であります自強不息の精神を受け継ぎ、地元の方々には勿論、地元を遠く離れ東京、京阪神、名古屋の各支部、或は全国でご活躍されております方々には、それぞれのお立場において、同窓会の活性化にご努力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

長期間に亘り低迷を続けておりました日本経済も回復の兆しが現れ、多少の安心感が出て参りましたが、一方で少子高齢化が進み、労働力不足による雇用問題をはじめ、諸々の難問が山積しております。一抹の不安を抱かざるを得ない状況にあります。幸いにも三万名を超える会員を擁する同窓会の連携を強め、相互に情報を交換できる機会を作っていくことも同窓会の役目であり、事業の一つとしていく必要があるのではないかと考えております。

一方、私が会長の職を仰せつかりましたから最も懸念しておりますのが、同窓会の事業活動が年を追う毎に停滞気味に推移している事でありまして、特に最近ご卒業された若い方々の同窓といった考え、母校といった意識が一部の方を除き希薄であるように感じておりますのは、私だけでは無いと思います。そこでこうした若い方々に魅力を感じていただける事業展開にも注力していきたいと思っております。

最後に毎年の事ながら、同窓会報「白亜」の発刊に際し、原稿等をお願い申し上げました会員の方々、ならびに編集いただきました会報委員会の皆様方に心からお礼申し上げますとともに、今後とも同窓会に對しまして一層のご支援ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ



学校長 加藤文悟

同窓会の皆様には、平素より上野高等学校の教育の振興に格別のご高配を賜り、誠に有難うございます。

上高生は、皆様から自強不息の精神をしっかりと受け継ぎ、勉学に部活動に日々汗を流し、それぞれの分野で上高旋風を巻き起こしてくれています。昨年度も、運動部においてはサッカー部をはじめ陸上部、剣道部、弓道部等が優秀な成績を収めてくれました。また、文化部においては、ギター・マンドリン部が17回連続全国大会出場を果たすとともに、吹奏楽部、新聞部等が輝かしい成績を挙げています。そして、読書感想文コンクールにおいても一年生女子（現二年生）が全国入選を果たしてくれました。もちろん、学業においても国公立および私立の難関といわれている大学に合格するなど、実力を発揮するとともに実績を伸ばしています。

今、社会においては、景気の回復とともに人材確保に向けた動きが激しく、数年前とは隔世の感があります。しかし、変化の激しい時代にあつて、子どもたちには、基礎基本をしっかりと身につけたうえで、将来を展望し、激動する社会に弾力的に対応できる豊かな創造力と主体的に行動する力が厳しく求められている状況に、変わりはありません。上高生が、そうした力を養って社会の発展に貢献する人に育つよう、本校職員は一人となつて取り組んでいます。

皆様には、本校教育に一層のご支援をお願いいたしますとともに、益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

卒業生 インタビュー

エコロジカルな経済学をめざして

千葉大学法経学部准教授 倉阪秀史さん(高33回)

「主唱されている「エコロジカルな経済学」とはどういう学問ですか。」

地球温暖化が人類の喫緊の課題となっており、環境制約が顕在化しています。エコロジカルな経済学は、経済活動には環境上の制約があることを認識して、より少ない物量でより多くのサービスを生み出す経済活動を広げるための方向性や処方箋を示していく実践的な経済学です。

千葉大学キャンパスで環境ISOを取得

198年に千葉大学に赴任されて以降の活動は?

ポールディングのたとえを借りれば、無限の資源を追いつづけてごみ処理にも頼着しない狩猟型の「カウボーイ経済」から、人類が宇宙船地球号の乗組員として有限な資源に依存し循環的なシステムの中で生きていく「宇宙飛行士経済」への明確な転換を図らねばならない時代の経済学と言っているかもしれません。

法経学部総合政策学科で、環境政策論と環境経済論を教えるとともに、さまざまな分野の政策提言に関わっています。大学の環境管理責任者も務めています。わたしが赴任した当初は再生紙の利用も行われていない状況でしたが、学生が主体的に参加する形で、省エネ、省資源、ごみ・リサイクル、化学物質管理、落ち葉の堆肥化、放置自転車対策などを進め、今年1月に全キャンパスで環境ISOを取得するまでに至りました。活動の様子は各年版の「千葉大学環境報告書」に詳細にまとめられています。

100キロマラソン「忍者」で完走

上高時代の思い出は?

月ヶ瀬マラソンは私の頃はもっと短い距離でしたが、20位以内くらいに入賞して名前が貼り出された嬉しい記憶があります。



プロフィール

くらさか・ひでふみ さん
1964年上野車坂町生まれ 上野高校33回、東京大学経済学部卒 1987年環境庁(現・環境省)入庁 メリーランド大学客員研究員を経て1998年から千葉大学法経学部准教授
著書に、「環境を守るほど経済は発展する」(朝日選書)、「エコロジカルな経済学」(ちくま新書)、「環境政策論」(徳山社)、「環境と経済を再考する」(ナカニシヤ出版)など。兄は作家の倉阪鬼一郎さん。

卒業後環境庁に入り、温暖化防止、循環型社会、企業の環境対策など、新しい政策分野の立ち上げに携わること

環境基本法策定に関わった後、94年から95年にかけてアメリカのメリーランド大学の客員研究員となり、帰国してから、環境影響評価法の策定に取り組みました。

環境基本法策定に関わった後、94年から95年にかけてアメリカのメリーランド大学の客員研究員となり、帰国してから、環境影響評価法の策定に取り組みました。

卒業生 インタビュー

芥川賞作家飄々と

伊藤たかみさん(高41回)

伊藤たかみさん(高41回)が第一三五回芥川賞を受賞したことは本紙前号の速報でお伝えしました。その後は、作品の出版や文芸誌の特集号が出され、三重テレビの特別番組に出演するなど話題を集めています。三重県の「県民の日」(四月十四日)には津市での講演会に招かれ、心と心の通じ合いには言葉が大事であることを体験談を交えて話されました。

上野高校時代の同期生で伊賀市の書店主である岡森史枝さんが、芥川賞作家のその後を尋ねました。

普段通り執筆できるようなったかな。まあ、連載が数本増えた分慢性的に時間が足りなくなっただけで、未だに文句たれてるんだけどね(笑)。でもやっぱり、書くことに集中できるのはいいなあ。仕事をしているって実感があるもの。

「この間も県民の日に、あんなに大勢の前でひょうひょうと講演している伊藤くんに感心したけど、話すことも得意なの?」

「音楽と言えば、これまた同期の誇り平井堅くんがいる。私らの学年って画家や漫画家がいっぱい、感性勝負の世界で名前が出ていく人が多いよね。この学年に限らず、卒業生には様々な分野で活躍する人がいて面白いよね。先生に、のんびりした人が多かったせいかもしれない。勉強は勉強で厳しいぶん、他の面では大らかなところがあつたからなあ。僕なんて、あまり学校に顔を突き出さなかつたせいで退学する気はゼロだったし(笑)。上高生でいるのが楽しかったんだと思うよ、たぶん。」



県民の日の講演のあと(左から2人目)

- 作品一覧
- 「助平屋にて、ブルブル・ダンスを踊って」(98年・河出書房新社) [文藝賞]
 - 「17歳のヒット・パレード」(98年・河出書房新社)
 - 「卒業式はマリファナの花束を巻いて」(97年・河出書房新社)
 - 「ロスト・ストーリー」(99年・河出書房新社)
 - 「ミカ!」(99年・徳間社) [リセット・ボタン] (00年・幻冬社)
 - 「アングラー・マイ・サム」(01年・徳間社)
 - 「ミカ×ミカ!」(03年・徳間社) [創作] (03年・河出書房新社)
 - 「海を歩きたい」(03年・文芸春秋) [ミカ!] 文庫版 (04年・文芸春秋)
 - 「影の華」(04年・角川春樹事務所) [さぶろん] (04年・ポプラ社) 坪田穂波賞
 - 「ドライブイン(満生)」(06年・河出書房新社) [八月の船上に揺る] (06年・文芸春秋)

「一年間、「別冊文藝春秋」で連載してきた作品が夏で終わるから、秋口には単行本になるんじゃないかな。あと、そのうち「群像」に発表しようと考えている作品に、第一三四回の芥川賞候補作だったものを合わせた新刊も、上手いけば今年中に出せそうです。」

漫画家 **ポマーン** (本名はヒミツ)

アクションコミックス「もえよん」に二重人格4コマ漫画「でゅあるていーちゃー」を大好評連載。一葉先生と二葉先生が織りなす正統派ギャグ?が大人気。

漫画家 **田中ほさな** (本名:剛)

第35回小学館新人コミックス大賞に入選してデビュー。2004年より初の単行本化作品となる「暗号名はBF」を週間少年サンデーに連載。2005年から月間少年シリウスにて「乱飛乱外」連載開始。

デザイナー **伊藤尚美**

版画やオリジナルグッズが国内外で大好評。著書に「うれし源」(青心社)、「やわらかガーゼでつくる」(NHK出版)、「赤ちゃんと一緒に感じたい」(主婦の友社)などがある。

歌手 **平井 堅**

1995年デビュー以来数々のヒットを世に送り、今や押しも押されぬアーティストに成長。「大きな古時計」や「瞳をとじて」が大ヒットの他、アルバム「歌バカ」が大好評中。

伊藤たかみ君だけじゃないぞ!
多士済々の41回生

上野高校近況

校歌を歌う声が少しずつ大きくなってきます。今年も新入生オリエンテーションでの校歌練習です。昨年度から1学年8クラスになりましたが、現在の3年生より1クラス少ないとやはり体育館もよりゆったりと感じられます。1クラス40人でちょうど今1,000人規模の高校になっています。伊賀地区の高校も大きく変わろうとしています。上野工業、上野商業、上野農業高校がひとつになる年も近づくと、上野高校の将来もまた違った見方をしなければならなくなってくるでしょう。

「四方を囲める山々」を眺めていると平穏さが感じられる毎日ですが、4月15日には足下が揺らぎました。テレビで報道されたように隣の亀山市は震度5強、伊賀市では震度5弱の地震がありました。江戸時代には伊賀でも地震による大被害があったことを考えると、いつ起こるかもわからない地震に対して避難訓練の重要さを再認識しなければならぬと思います。服部川の堤にある、当時の被災者供養の碑をどれくらい生徒たちが知っているのでしょうか。本校のクラブ活動は、体育系・文化系ともこの1年間様々な場で活躍が見られました。高校時代の思い出と言え、クラブ活動をしてきた人にとってはまず最初に思い浮かぶことではないか。今年4月の吹奏楽部・ギター・マンドリン部の定期演奏会には、2日間で約1,600人の来場者があったそうです。それぞれの世代によって共通の思い出があります。「弦奏同好会」という名前を聞くと、その世代の人にはまたその時代が蘇ってきます。最近、映画やテレビ等で東京タワー建設中当時の「昭和」がよく出てきます。その頃小学生だったものにとっては、現実には苦しいことや嫌なこともあったはずなのに、よき時代として思い出されます。その小学生が高校生となり、新入生歓迎のクラブ紹介が「講堂」でありました。弦奏同好会がブリーズ・ブリーズ・ミー」でした。(市岡千明・高19回)

総会報告

平成18年度の総会は昨年10月14日に上野フレックスホテルにおいて開催されました。前月に行われた役員会・理事会の議案が審議承認されました。総会事項は次の通りです。

- ◆日時 平成18年10月14日(土) 14:00~17:00
◆挨拶 左橋佳三会長 上村桂一学校長
◆採賛 今西元郎東京支部副支部長 山本吉正名古屋支部長 百本惇温京阪神支部支部長
◆議事 平成17年度事業報告 平成17年度一般会計及び特別会計の決算・監査報告 平成18年度事業計画 平成18年度一般会計及び特別会計予算案 平成18年度役員改選について



総会に続いて記念講演会が行われました。講師は福井健二さん(上高6回、伊賀文化産業協会専務理事)で演題は「上野城と藤堂高虎」という内容で名築家として知られる藤堂高虎の実像を中心に興味深いお話を語っていただきました。

平成19年度(2007年) 総会のご案内

とき 平成19年10月13日(土)
・14:00~ 総会
・15:00~ 記念講演会
・16:00~ 懇親会
ところ 上野フレックスホテル
伊賀市平野中川原544-2
☎0595-21-3111

記念講演



講師 藤井 充子さん
演題 伊賀の俳人

プロフィール

1931年9月16日生(上高1)
日本伝統俳句協会役員、国際俳句交流協会、ホトトギス同人、月刊俳誌「芭蕉伊賀」主宰、三重県俳句協会理事、財団法人芭蕉翁顕彰会理事、伊賀市芭蕉祭詠句俳句学童俳句連者、毎月20余りの句会の指導、新聞、雑誌等その他の関連行事の選者として活躍中。
句集に「寒梅」「寒梅第二句集」(玉藻社)がある。

平成19年度の総会・講演会・懇親会を上記の通り開催します。お誘い合わせの上、多数ご出席下さいますようよろしくお願いいたします。受付は当日会場で行いますので、自由にご参加下さい。懇親会参加者には、ささやかなプレゼントをご用意いたします。(協賛学年~1回~7回)

会費納入のお願い

上野高等学校同窓会は、毎年春の卒業生による新入会員入会金と全会員にお願いしております年費の合計で運営されています。非常に活発な同窓会活動を行っており、この1年間の主な事業を挙げますと次の通りです。
・同窓会報「白亜」の発行
・ホームページの運営
・一般公開講座(明治校舎で学ぶ「ふるさと伊賀 再発見」パート9)
・「雪解の集い」の後援
・百周年記念施設の維持管理

- ・東京、名古屋、京阪神支部への支援
・上中会、くれは会、扇の芝会への支援
・各学年同窓会への支援
・上野高校への支援
その他、総会の拡充や同窓会名簿の管理等

上野高等学校同窓会の経済基盤を強固なものにし、母校への支援、会員への情報サービスの充実等、更なる発展を願うものであります。今年度も年費(一口2,000円)の納入につきまして、会員皆さま方のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

10月から第3セクターに
~伊賀線を考える高校生の集いを設立~
上高鉄道同好会・森喜 駿に聞く

「桑町、茅町、広小路、もひとつ揺られてうえのまち」という西岡たかしの歌を口ずさんだ頃もありました。私のような団塊の世代にとっては、手でドアを開け、チンチンという音で発車する電車、西名張という駅まで続いていた線路の跡の道路等、なつかしく思い出される近鉄伊賀線。伊賀線はどうなるの?伊賀線は今年の10月に第3セクターへ移行されようとしているのです。

上野高校生の多くが伊賀線を利用していることは今も昔も変わりません。今後どうなるのかはおおいに関心のあるところです。そこで今年3月、上野高校鉄道同好会と生徒会が伊賀地区の高校に呼びかけて「伊賀線を考える高校生の集い」設立準備会を開催しました。どのようなことを目的とし、これからどのような活動を考えているのか、4月27日(金)に鉄道同好会会長森喜駿さん(3年生)に聞いてみました。

今後、伊賀線はどうなるのでしょうか?

累積赤字や利用者の減少で困難な状況が続いてきましたが、経営が今年10月より第3セクターになります。当初は3月に第3セクターになる予定でしたが、4月に伊賀鉄道株式会社が設立されました。新会社での運賃は7月頃に決定されるようですが、これまでの約1.5倍くらいになるかもしれません。定期料金については伊賀市、名張市より上がった分に対して補助があるようです。

この集いの目的はどのようなところにあり、今後どのような活動を考えていますか?

伊賀市民や名張市民に伊賀線をより身近に感じてもらう、より多くの人たちが伊賀線を利用することによって少しでも活性化に協力できたらと考えています。

- 活動としては、
○駅の清掃
○伊賀線ギャラリー列車(鉄道同好会が撮影した写真を展示)
○伊賀線散策マップを主要駅に置く(現在同好会で作製中)等を計画しています。

「伊賀線を考える高校生の集い」としては1回目を6月に清掃活動で、2回目は8月8日が91年目の伊賀線開業記念日であることからその頃に行事を開催して集いとしたいです。

最後に、鉄道同好会について聞かせてください

昨年度同好会となり、現在3年生2名、2年生1名で活動しています。全国の鉄道研究グループとの交流も目指し、昨年6月に立命館大学の鉄道研究会と合同鉄道展を開催しました。本年は6月3日にふれあいプラザで立命館大学とともに「鉄道博覧会in伊賀」を開催します。当日は近畿圏内の大学・高校約10校が集まって各校のブースを作ります。伊賀線のPRもする予定です。

以上のような話を生き生きと語ってくれました。今後の鉄道同好会の活躍が楽しみです。おおいに注目したいと思います。なお、5月に入って、完成した伊賀線散策マップが上野市駅、茅町駅、伊賀神戸駅に置かれました。



(市岡千明・高19回)

平成17年度
(平成17年9月1日~平成18年8月31日)
三重県立上野高等学校同窓会
名簿特別会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成18年度
(平成18年9月1日~平成19年8月31日)
三重県立上野高等学校同窓会
名簿特別会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成19年度
(平成19年9月1日~平成20年8月31日)
三重県立上野高等学校同窓会
名簿特別会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成17年度
(平成17年9月1日~平成18年8月31日)
三重県立上野高等学校同窓会
一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成17年度
(平成17年9月1日~平成18年8月31日)
三重県立上野高等学校同窓会
一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成18年度
(平成18年9月1日~平成19年8月31日)
三重県立上野高等学校同窓会
一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成19年度
(平成19年9月1日~平成20年8月31日)
三重県立上野高等学校同窓会
一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

おたより おしらせ

上中会 活動の要は幹事さん

上中会には、総会、役員会、幹事会があります。学年毎の2、4名の幹事



全員が四月中旬に集って幹事会を開催しており、次のような内容です。

(一) 事業報告、会計、監査報告、六月の総会の議題、二中全会より等を役員が説明して、意見交換、その他の要望、問題点等の打合せ。

(二) 上中会だより(総会案内状をも兼ねて居る)、総会の出欠の返信用ハガキ、封筒、切手、会費の振込用紙等、自分の学年の会員数分を持って帰り、会員への連絡並びに書類の発送業務をお願いします。

(三) 自分の学年の会員の過去一年間の消息(住所変更、物故者の氏名)を文書で報告。
(四) 打合せ終了後は、親睦のための懇親会を開催。
以上からお分かりのように、上中会

平成十八年度の阿三三会

私達阿山高女昭和十九年卒業三十三回生は「阿三三会」と称し、毎年同年会を開いております。今回はかの「丈六に陽炎高し石の上」芭蕉の伊賀市富永の新大佛寺に九月三十日、三十名が集いました。

記念撮影後、物故者三十名の法要を住職の説経の中、在りし日の友の面影を偲びつつ阿彌陀佛の前で一人一人焼香。感慨深いものでした。

後、ハーバード大学美術館所蔵の佛像の手が此の新大仏の手と云われる大佛を拝観、慈明菊咲く枯山水の庭を眺め寺庭夫人手作りの精進料理を味わいつつ談話、八十路に入ろうとする船とは思えない明るい笑いが溢れていました。来年はもっと大勢が元気に集まろうと「高旗山の…」校歌を合唱。秋晴れの佳き一日でございました。
(松井千枝)



の活動の要は幹事会であり、各幹事さんの会員への連絡、情報収集が上中会の活性化につながって居ります。
今までは総会案内を郵送したら配達不能で返送されたり、数年前になくなってすでに連絡してあるのにどうなっているのかとお叱りを受ける事が時にありましたが、最近はそのような事は殆どなくなりました。

次に年会費千円の納入状況は
年度 納入会員数 総会員数 納入率
平成十五年度 五六〇名 一六〇二名 三五%
平成十六年度 五四〇名 一五八一名 三四%

上高卒、古稀の上五会開催

今年三月の通知から始まる名古屋支部十三人の幹事による世話で、十月二十二日、二十三日、全山黄葉、紅葉の飛騨路で開催された。
標高六百四十メートル、高山の丘に立つ「ホテルアソシア高山リゾート」に集ったのは、男子四十六名、女子二十八名の古稀とは云え七十年程若き者同士であった。記念撮影を終えて後、会場に入り物故会員に黙祷を捧げた後、柏田明二君の挨拶と服部康正君の乾杯の音頭で宴会がはじまった。

未だ現役の者、地域社会での役職者、ボランティア活動、野菜作り、趣味三昧等、心身健やかに暮らす人達で、六人がけの丸テーブルで、旧交をあたためるもの、近況を報告するもの等の歓談交流で会話が弾んだ。あちこちで肩を組み合う所、杯を重ねる所等シャッターが切られていた。席を立ってお互いに交錯して、またたく間に二時間がたち、あとは二次会へと移っていった。次回二年後の東京(関東)での再会を楽しみにし、思い出深い上五会を開催してくれた幹事の方々に感謝して別れた。

翌日は行楽で天候が心配されたがよくなり、世界遺産の白川郷と高山のセントリークラブ及び上高地ハイキングの二手に別れ大変有意義な楽しい二日間であった。
飛騨の旅路にての句を届けます。

平成十七年度 五二七名 一五二七名 三四%
平成十八年度 四七二名 一四一八名 三三%
三十%を超えており、高齢のため身体の不自由な方が多いにもかかわらず、多くの方が協力してくれている事に感謝しております。学年幹事さんが努力し、連絡を密にしてくれている成果であります。
学年幹事さんへは、上中会会長より委嘱状を発行して居ります。
学年幹事さんがよく頑張ってくれて居る内容を報告し、今後とも活躍を期待して居ります。
(上中会副会長 福井紀生 中42回)

飛騨の錦秋の旅を満喫す

一、紅葉づれる野麦峠を越えにけり
一、花芒己が心の白川郷
白川郷の佇まいを参観して
人類の生き方、心の原点を窺う
平成七年(一九九五年)に世界遺産となった岐阜飛騨の白川村荻町の合掌集落を参観した。茅葺き屋根の片側一面だけで千数百の茅の束を敷き詰め



上高第22回

平成十九年一月三日に、上野高校第22回卒業(昭和四十六年三月卒)の同窓会を西明寺にあるウエルサンピア伊賀で開催しました。
恩師の先生(鬼の〇〇先生も)にも参加いただき、約六十名が集まりました。私たちの学年は、三十才の頃から三、四年ごとに行っています。

貫禄(お腹)が出ています。髪の毛が白い、少ない、何時までも若々しい、卒業後三十五年余りの歳月を感じずにはいられません。一次会では、昔話に花が咲き、また、余興として同窓生の家業の商品を持ち寄りビンゴゲームで盛り上げ、当時の写真をスライドで写したりしている内に、予定の三時間はあつという間に過ぎました。

場所を変え、二次会ではカラオケで、当然、昔はやった歌を皆で楽しく歌い、語り、時がたつのを忘れませんでした。
次回、三年後の再会を約束し、散会いたしました。(安場 豊 高22回)

て、五十年間も保つ。「結」と呼ばれる隣近所の助け合いがあつての事。なんと平和な仲良しの村なんだろう。子どもも学校を休んで手伝う。厳しい地形と冬の豪雪の気候風土の中で二階に「いろり」のある大家族生活。それで一階から四階まで暖をとる煙による防漏効果で建物の耐久をはかる。米・養蚕・家畜による生産活動、循環農法、釘一本使われずで台風地震に耐え得た合理的な駒尻の梁で組まれた大型四階建木造集落。山・川・田畑や動植物と人間の共生・共活を原理とした即ち「自然と人為の調和」だ。これこそ人類共有の掛替えのない財産だ。まさに「心のふるさと」に出会うことが出来た。そこには精神・命の復活、充実感を味わいみる事が出来た。言いかえれば、自然から離れた都市文明、工業文明の中で人間性が疎外され、閉鎖された人間関係からの解放があるとみえる。一人でも多くの方の参観をすすめ

人間というものは、長い生命のつながりの中で今あるのだ。この生命の大切さを子供たちに伝えよう。戦後六十年の今も変わらぬ人間社会の醜さ。いじめによる自殺、戦争による殺戮等々。
「自然と人為の調和」ある暮らしの社会構築が急がれる。足下から始めよう。
核戦争の危機に科学者で社会的責任を果すよう呼びかけたラッセル、アインシュタイン、湯川秀樹らの科学者国際会議「バグウォッシュ会議(一九五七年開催)」の理念、実践は科学者の古用語でない。人民一人一人心ある者からその立場から具体的に核廃絶をあらためないで運動を起こそう。科学・技術は人間の幸福に寄与するためにある。国境をもたない渡り鳥は言う。
世界は一つと。
芽が風にゆれ、黄葉づる白川郷で何が観えたか。風景の背景にある人類の叡知、平和の祈り。研鑽を共々しもつと深奥を探ろう。そして社会の子孫孫まで「愛児に樂園」を贈る運動に農業を通して精進することを人生の業としたい。
(川瀬敏彦 高5回)



